

J A みえなかの 自己改革

自己改革報告書 2022

農業生産の拡大
農業者の所得増大



不断の自己改革
への取り組み

健全経営の堅持



元気な地域づくり



目次

JAみえなか「不断の自己改革」への取り組み	1
-----------------------	---

農業生産の拡大から農業者の所得増大へ

地域農業振興計画に基づく需要に応じた米穀生産の拡大	2
重点品目の産地化・生産量の拡大	2
農産物直売(ファーマーズマーケット)事業の強化	3
消費者・実需者ニーズに応じた多様な販売チャネル・販売ロット・契約販売の拡大	4
低コスト生産技術の普及等による生産トータルコストの低減	4
共同利用施設の体制整備	5
農業者のニーズに沿った農機具の提案と修理・整備サービスの強化	5
農業金融機関として資金供給や相談機能充実による金融仲介機能の発揮	6
農業リスクを低減する保障の提供	6
(※)その他の取り組み	6

元気な地域づくり

協同活動を通じた組合員・地域との関係強化	8
対話による組合員の意思反映・運営参画の仕組み構築	8
事業活動を通じた組合員・次世代との関係強化	9
「農」「食」「地域」「JA」を結び、伝わる広報活動の展開	9
女性の運営参画推進	9
女性組織活動の維持・拡大	10
地域の居場所づくり・健康づくりへの取り組み	10
農家の次世代・後継者への円滑な事業承継・資産承継の相談・支援体制の構築	10
地域の住環境の整備と農住まちづくり活動の支援	11
(※)総合事業を通じた地域のインフラ機能の発揮	11

健全経営の堅持

中期経営計画に基づいた計画経営の実践	12
持続可能な経営基盤の確立・強化	12
JAみえなか 組合員アンケート結果	13
JAみえなか 令和3年度実績	13

JAみえなか「不断の自己改革」への取り組み

JAみえなかでは、令和3年4月の合併以前より「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組んできました。

そして、昨年度実施した組合員アンケート等で寄せられた組合員の皆さまの声に基づき、向こう3か年の取り組みを方向づける第1次中期経営計画（令和4年度～令和6年度）を策定し、その中で改めてJAみえなか自己改革の具体的な方針と取り組み項目を設定しました。

JAみえなかは、農業と地域になくてはならない組織としてあり続けるため、持続可能な組織経営基盤の確立・強化を図りながら、正組合員・准組合員の皆さまとの対話を通じた「不断の自己改革」に取り組めます。

経営理念

JAみえなかは、食・農・自然を大切に、協同の力を発揮して、豊かなくらしと地域づくりに貢献します。

第1次中期経営計画（令和4年度～令和6年度）

テーマ

協同の力で築く「多彩な農業の維持・継続」と「元気な地域づくり」
及び総合事業による「組織・経営基盤の強化」

JAみえなか「不断の自己改革」への取り組み

基本目標Ⅰ 農業生産の拡大・農業者の所得増大

多様な農業者との活躍と連携により、「農業生産の拡大」を通じて「農業者の所得増大」につなげ、多彩な地域農業の維持・継続を目指します。

基本目標Ⅱ 元気な地域づくり

総合事業と協同活動を通じて多様な組合員との関係を深めるとともに、地域と連携しながら「元気な地域づくり」への貢献を目指します。

基本目標Ⅲ 健全経営の堅持

経営継続に必要な利益確保の戦略と経営管理手法の高度化等により「健全経営の堅持」に取り組み、不断の自己改革を支える持続可能なJA経営を目指します。

農業生産の拡大から農業者の所得増大へ

地域農業振興計画に基づく需要に応じた米穀生産の拡大

地域水田農業の維持と農業者の所得増大に向けた水田活用として、地域特性に応じた米・麦・大豆の2年3作ブロックローテーションの継続支援に、行政と連携して取り組んでいます。

米・麦・大豆の1等比率向上を目指し、栽培研修会の開催や圃場巡回を通じて土づくり・施肥・防除等の基本技術指導、実証展示圃にて肥料農薬の効果や栽培適性の検証に取り組んでいます。

近年の猛暑による米の品質低下対策として、高温に強い耐暑性品種「三重23号」「きぬむすめ」や業務用多収品種の作付け推進に取り組んでいます。



業務用米の圃場調査

令和3年度実績

評価指標	実績	評価指標	実績
米の作付面積	4,922ha	米の1等比率	52.5%
麦の作付面積	2,042ha	麦の1等比率	44.5%
大豆の作付面積	1,638ha	大豆の1等比率	40.4%
米耐暑性品種作付面積	180ha	業務用米多収品種作付面積	77ha

重点品目の産地化・生産量の拡大

ブランド園芸品目（いちご・キャベツ・なばな・ブロッコリー等）について、収量・品質向上を目指し、栽培研修会や圃場巡回を実施しています。いちごについては、新規栽培者に対する支援や高齢農業者等の生産活動の継続を支援するため農作業支援体制の整備等、産地維持に取り組んでいます。キャベツ・ブロッコリーについては、水田農業の担い手経営体や集落営農組織に対して作付け推進を行い、収益性を高める複合経営を提案しています。

重点園芸品目（インゲン・モロヘイヤ・赤シソ）について、作付面積の維持・拡大を目指し、新規栽培者の育成・支援に取り組んでいます。「野菜塾みらい」や「菜園塾」の受講生・卒業生や女性組織会員への作付け提案、既存の栽培者に対するモロヘイヤと赤シソの輪作栽培を推進しています。

近年、中山間地域を中心に鳥獣害被害が深刻化するなか、ししとう等の鳥獣害に強い農産物の振興に取り組んでいます。



なばな・ブロッコリーの圃場巡回



いちご新規栽培者勉強会の共催

自己改革工程表 重点目標

ブランド園芸品目の収量拡大による売上増加

評価指標	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標	令和6年度目標
ブランド園芸品目 市場出荷量	2,763t	2,612t	2,703t	2,794t
(いちご)	(204t)	(225t)	(231t)	(237t)
(キャベツ)	(2,360t)	(2,180t)	(2,260t)	(2,340t)
(なばな)	(88t)	(90t)	(92t)	(94t)
(ブロッコリー)	(111t)	(117t)	(120t)	(123t)

農産物直売(ファーマーズマーケット)事業の強化

J A みえなか地産地消の拠点である農産物直売所「きつする黒部」「J A 産直ひろば」「ぬくいの郷」及び地元量販店等に設置の農産物直売コーナー「インショップ」(19箇所)では、直売所に出荷する農業者で組織された「産直倶楽部」会員に対して、端境期対策として作期調整の提案や売れ筋・不足品目に関する情報提供を行い、店舗の品揃えの充実と会員の所得向上に取り組んでいます。

また、J A みえなかの農畜産物を広くPRするため、季節に応じたイベントの開催やSNSによる情報発信、職員で結成した「みえなかあぐり隊 (MAT)」によるPR活動を行っています。



県下最大級の売り場面積を有する「きつする黒部」外観



民間の直売所をJ A の直売所としてリニューアル「ふれあいマーケットぬくいの郷」店内



季節に応じたイベント開催「トウモロコシ祭り」



職員で結成した農畜産物PR隊「みえなかあぐり隊」(愛称: MAT)

令和3年度実績

評価指標	実績	評価指標	実績
産直倶楽部 会員数	1,669人	農産物直売所 販売品取扱高	311百万円
産直倶楽部 新規会員数	79人	インショップ 販売品取扱高	475百万円
農産物直売所 イベント回数	75回		

消費者・実需者ニーズに応じた多様な販売チャネル・販売ロット・契約販売の拡大

農家手取りの向上のため、商系の米卸業者への販売や消費者への直接販売の強化、中食・外食向けの業務用米の複数年契約による作付け推進に取り組んでいます。

また、子会社「JAベジマルファクトリー（株）」へカット用野菜の出荷等、需要に応じた加工・業務用野菜の安定供給・計画販売に取り組んでいます。

出荷資材コストの削減と作業の効率化による農業生産の拡大に向けて、米のフレコン出荷や園芸品目のコンテナ出荷の拡大に取り組んでいます。



玄米予約販売会（きつする黒部）



JAベジマルファクトリー（株）へ鉄コンテナによる加工用キャベツの出荷

自己改革工程表 重点目標 米の直接販売や販路拡大による売上増加

評価指標	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標	令和6年度目標
米の直接販売数量	53,439俵	60,000俵	62,000俵	65,000俵
(参考) 米の集荷数量	128,533俵	130,000俵	130,000俵	130,000俵

● 令和3年度実績

評価指標	実績	評価指標	実績
業務用米 取扱数量	5,106俵	加工業務用野菜 取扱数量	604t

低コスト生産技術の普及等による生産トータルコストの低減

担い手経営体や部会組織等に土壌診断を推進し、診断結果に基づく肥料農薬の適正使用や労力軽減の提案に取り組んでいます。また、スケールメリットを生かした肥料の一括仕入れにより、少しでも安く良質な肥料を供給するため、予約購買強化に取り組んでいます。さらに、園芸品目の出荷を目的とするパイプハウスの新設や獣害による農作物被害を軽減するための対策資材の設置に対して助成事業を行っています。

購買事業と営農指導・販売事業の連携強化により、担い手経営体に対する生産から販売までのトータル提案で生産拡大・所得向上に取り組んでいます。



いちご生産者へ土壌診断相談会



予約水稻肥料の納品

自己改革工程表 重点目標

肥料の一括仕入れに向けた予約購買推進によるコスト低減

評価指標	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標	令和6年度目標
対象品目	3品目	4品目	4品目	4品目
予約購買供給数量	60,266袋	70,000袋	71,000袋	72,000袋

● 令和3年度実績

対象商品	予約購買供給数量	当用価格との価格差（袋）	農業所得増大効果
化成肥料14-14-14	31,845袋	235円削減	7百万円
エムコート022	10,317袋	892円削減	9百万円
セラコートR822	18,104袋	827円削減	14百万円
計	60,266袋		31百万円

評価指標	実績
土壌診断点数	608点

共同利用施設の体制整備

共同利用施設の老朽化が進むなか、安定稼働を維持するため、計画的な設備・機器の更新に取り組んでいます。また、共同乾燥調製施設の効率的な運営に向けて、施設の機能・体制整備の検討を行います。

農業者のニーズに沿った農機具の提案と修理・整備サービスの強化

生産性向上につながる高性能農機具や共同購入トラクター・小農機具等、担い手経営体、中核的担い手、多様な担い手それぞれのニーズに沿った農機具の提案に取り組んでいます。また、整備体制の充実により修理・整備サービスの強化に取り組みます。

農業者の営農継続を支援するため、レンタル農機と中古農機の取り扱い拡充に向けて検討を行っています。



農機展示会



農作業安全講習会

● 令和3年度実績

評価指標	実績	評価指標	実績
主要農機供給台数	36台	農機レンタル件数	19件

農業金融機関として資金供給や相談機能充実による金融仲介機能の発揮

地域農業を支える農業メインバンクとしての機能を発揮するため、農業金融強化に取り組んでいます。農業者を資金面でサポートするため、担い手金融リーダー（農業融資担当者）を複数配置・育成し、営農経済事業部門の担当者と連携しながら、継続した訪問活動を通じてニーズを把握し、適切な資金提供ができる体制の構築に取り組んでいます。



融資担当者が農業者を訪問

自己改革工程表 重点目標 農業者向け融資の拡大

評価指標	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標	令和6年度目標
農業融資 新規実行額	665百万円	545百万円	530百万円	605百万円

農業リスクを低減する保障の提供

農業者が安心して農業に専念することを支援するため、ライフアドバイザー（共済渉外担当者）による訪問活動を通じて、農業リスク診断活動に取り組んでいます。農業を取り巻くリスクや対策状況を農業者とともに確認し、診断結果に基づく保障提案に取り組んでいます。

令和3年度実績

評価指標	実績
農業リスク診断数	2,130件

JAみえなかでは、中期経営計画で自己改革項目として定めた取り組み以外にも、農業生産の拡大・農業者の所得増大に向けて、様々な取り組みを行っています。

事業利用分量配当の開始



令和4年度より肥料・農薬の予約購買による年間購入額に応じた事業利用分量配当を新たに実施しています（配当基準は翌年度開催の通常総代会にて決定）。

JA・子会社による農業経営



農業者の支援と地域農業の維持・発展のため、JA及び子会社「(株)JAアグリサポートだいち」では農業経営を行っています。自ら農業生産を行うほか、新規就農者の育成、農作業支援等に取り組んでいます。

多様な農業者の育成



農業初心者を対象に、1年かけて野菜づくりの基礎を学ぶ「野菜塾みらい」と「菜園塾」を開講しています。卒業生からは新規就農された方、直売所に出荷される方も誕生しています。

農作業のマッチング支援



農作業支援センターでは、農作業を支援したい組合員・地域住民（受託者）と、労働力を確保したい組合員（委託先）のマッチング支援・調整を行っています。

農福連携による労働力確保



福祉事業所との農福連携による農業労働力の確保に向けて取り組んでいます。現在は、JA選果場で箱詰め後の仕分け作業や農業経営事業の圃場の収穫作業等で実施しています。

子会社によるカット用野菜の買取



国産野菜を使用したカット野菜の製造・販売を行う子会社「JAベジマルファクトリー（株）」は、キャベツ等みえなか管内の野菜を契約買取する等、加工用野菜の販売先として産地振興に貢献しています。

地元農産物を使用した食堂の運営



「地産地消」をテーマに農産物直売所「きつる黒部」に出荷された地元野菜を使用した料理を提供するセルフ型の食堂「きつる食堂」を運営しています。

食農教育活動



次世代の子ども達に食と農の大切さを伝えるため、食農教育活動に取り組んでいます。地域の方々と一緒に行う農業体験や小学校への出前授業、管内の小学生を対象に「あぐりスクール」を行っています。

JAみえなかの自己改革

元気な地域づくり

協同活動を通じた組合員・地域との関係強化

地域の拠り所となる親しまれるJAを目指して、ふれあい・交流を深めることを目的に組織全体で行う「1支店等1協同活動」に取り組んでいます。組合員・地域住民・JA役職員が一緒になって企画・運営する「地域ふれあい活動」、JA役職員が主体となり地域に貢献する「CSR活動」、より地域に身近な情報を発信する「支店・事業所だより」に、各部署が創意工夫して取り組んでいます。



「照る照る坊主」の制作・展示
(大足店)



職員が栽培した野菜を無料配布
(三雲支店)



地元小学校の社会見学受入
(久居西支店)

自己改革工程表 重点目標 1支店等1協同活動の実践

評価指標	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標	令和6年度目標
活動部署数 (実施率)	47部署 (87%)	全店舗・事業所	全店舗・事業所	全店舗・事業所

対話による組合員の意思反映・運営参画の仕組み構築

組合員の声に基づく事業運営や自己改革実践サイクルの構築のため、組合員との対話による意思反映・運営参画の仕組みづくりに取り組んでいます。また、准組合員を「正組合員とともに、地域農業や地域経済の発展を支える組合員」と位置づけ、正組合員と准組合員が一体となった事業運営を目指しています。

対話手段として、JA事業活動の経過や計画に対して総代からの意見等を聴く「地区別総代懇談会」の開催、同じ地域に暮らすJA地区役員、総代、女性組織、部会組織等のメンバーで元気な地域づくりについて話し合う「支店運営委員会」を設置しています。また、中期経営計画の策定前の組合員アンケートや情報発信の強化に向けた広報モニターの設置に取り組んでいます。



地区別総代懇談会の開催

自己改革工程表 重点目標 対話・意思反映

評価指標	令和3年度実績	令和4年度目標
地区別総代懇談会による対話	10地区で260人出席	10地区で開催
支店運営委員会による対話	5地区で開催	34地区で年2回開催
広報モニター制度による意見収集	30人に2回のアンケートを実施	30人に6回のアンケートを実施
自己改革の取り組みと成果を周知	リーフレットの作成・配付 広報誌への掲載	リーフレットの作成・配付 広報誌・公式Webサイトへ掲載

事業活動を通じた組合員・次世代との関係強化

組合員の世代交代が急速に進み、JAと次世代組合員（後継者）との関係構築が課題となるなか、部門間で連携し、事業活動を通じて次世代との接点強化に取り組めます。

「農」「食」「地域」「JA」を結び、伝わる広報活動の展開

広報誌や地域コミュニティ誌、公式Webサイト、SNS、日本農業新聞、パブリシティといった多様なメディアを使って、JAみえなかの食と農、事業活動、自己改革について、積極的な情報発信に取り組んでいます。また、全職員広報を実現するため、職場報やイントラネットを活用した情報共有に取り組んでいます。

JAみえなかが事業活動を通じて行うSDGsの取り組みについても、広報誌等で情報発信を行っています。



広報誌「きずな」
(年12回)
発行部数 約29,000部



地域コミュニティ誌
「みえのまんなか」(年4回)
発行部数 約89,000部

令和3年度実績

評価指標	実績	評価指標	実績
メディア掲載本数	56本	LINE友だち登録数	2,702人
日本農業新聞投稿数	140件	Instagramフォロワー数	671人

女性の運営参画推進

農業や地域で活躍される女性の意見を反映したJA経営を実現するため、令和5年6月の役員改選において女性役員の増員に取り組めます。また、組合員加入促進リーフレットを作成し、女性組織の会員等を対象に、女性正組合員の加入促進に取り組んでいます。



女性組織本部役員と
JA常勤役員との新春懇話会



組合員加入促進
リーフレット

令和3年度実績

評価指標	実績	評価指標	実績
女性新規加入組合員数	411人	JA女性役員数	2人

女性組織活動の維持・拡大

会員と意見交換等を行いながら、食と農・福祉・健康・教育文化等をテーマに様々な活動を行う女性組織活動を支援しています。また、将来に向けて組織基盤を維持するため、女性組織仲間づくり運動や、食農教育活動及びフレッシュミズ活動等を通じて次世代のJAファンづくりに取り組んでいます。



「きらきらの会」パン教室
(三重中央地区)



かるたでSDGs学習会
(一志東部地区)



「フレッシュミズ」親子で収穫体験
(松阪地区)

令和3年度実績

評価指標	実績
女性組織会員数	1,471人

地域の居場所づくり・健康づくりへの取り組み

助け合い組織のボランティア活動として、ふらっとほーむやミニデイサービスの運営、社会福祉協議会が行う配食サービスへの協力等、高齢者支援や地域住民同士の交流活動に取り組んでいます。

また、JAの福祉・介護事業として、組合員や地域住民がいつまでも健康で住み慣れた地域で暮らし続けられるように、介護予防プログラムを提供しています。令和4年度には健康と笑いをテーマにした講座「健康倶楽部」を新たに開設しています。



高齢者宅を訪問



社協の配食サービスへの協力



「健康倶楽部」の開設

農家の次世代・後継者への円滑な事業承継・資産承継の相談・支援体制の構築

組合員農家が次世代・後継者へ円滑に事業承継・資産承継ができるように、税理士や司法書士等の専門家と連携・調整を図りながら、相続発生前・発生後の相談・支援に取り組んでいます。

令和4年4月には新たな相談窓口「相続事業承継センター」を設置、また必要な専門知識を有する職員の育成を行う等、相続・事業承継支援体制の強化に取り組んでいます。

令和3年度実績

評価指標	実績
相談件数	56件



専門家と連携した相談会

地域の住環境の整備と農住まちづくり活動の支援

市街化区域に隣接した遊休農地の有効活用のため、竹林まちづくり推進協議会（松阪市山室町）が運営する農業体験農園の活動を支援しています。農を介した地権者と農園会員との交流、地域コミュニティの形成に貢献しています。



竹林まちづくり農業体験農園

JAみえなかでは、このほか、総合事業を通じて地域のインフラ機能を発揮し、組合員・地域住民の安心できる暮らしに貢献しています。

信用事業



金融サービスの提供

共済事業



ひと・いえ・くるま・農業の総合保障の提案

介護・福祉事業



介護保険サービスの提供

生活購買事業



燃料の配達

総合事業

不動産・資産管理事業



不動産・土地活用の相談



移動購買車「幸多ろう号」運行
(美杉・波瀬・榎原)



住宅整備の相談



葬祭ホール運営

JAみえなかの自己改革 健全経営の堅持

中期経営計画に基づいた計画経営の実践

常勤役員による進捗管理レビューや組合員との対話を通じて自己改革実践サイクルを構築し、第1次中期経営計画で設定した自己改革項目の着実な実践に取り組みます。

持続可能な経営基盤の確立・強化

少子高齢化や農業経営体の減少が進むなか、現状のまま事業改革を進めなかった場合の5年後の成り行きシミュレーションを行ったところ、事業利益が大幅に減少する見通しとなりました。

そこで、不断の自己改革を実践していくために必要な経営基盤の確立・強化のため、令和3年度にプロジェクトを立ち上げ、営農経済事業の収益力向上・収支改善、営業力強化・体制整備による労働生産性の向上に向けた施策を策定しました。

令和4年度はその実践に向けて取り組むとともに、信用事業の営業店システムの導入を控えて効率化店舗化を視野に支店の体制整備について検討を行います。



プロジェクト発足

自己改革工程表 重点目標 営農経済事業にかかる稼働率向上に向けた機能再編

評価指標	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標	令和6年度目標
拠点事業所の集約化	—	1拠点	3拠点	4拠点

自己改革工程表 重点目標 労働生産性向上に向けた金融店舗の体制整備

評価指標	令和3年度実績	令和4年度目標	令和5年度目標	令和6年度目標
支店機能の強化・見直しと効率化店舗化	検討	計画策定	調整・検討	検討後店舗数

◆ 経営基盤強化に向けた実践施策（上記以外・一部抜粋）

- 春キャベツの作付け推進による苗供給枚数の拡大
- 職員によるドローンを活用した共同防除による費用削減
- アプローチリストの活用による購買品取扱高の拡大・JAシェア率の向上
- 経済事業店舗の公用車両・人件費等の経費削減
- 営業時間の見直しによる時間外費用の削減

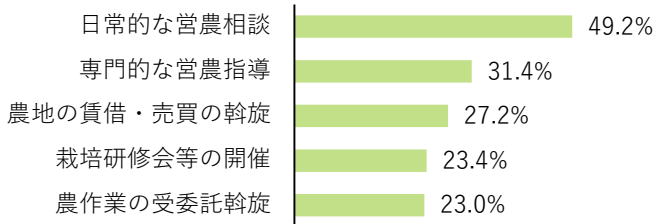


JAみえなか 組合員アンケート結果（抜粋）

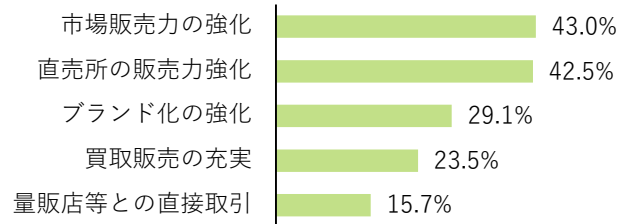
JAみえなかでは、第1次中期経営計画及び自己改革の取り組み項目の設定にあたり、JAの事業活動や組織運営に対する組合員の皆さまからご意見をお伺いするため、令和3年9月に組合員アンケートを実施しました。

	対象者	回答者	回収率
正組合員	1,600人	763人	47.7%
准組合員	1,600人	545人	34.1%
計	3,200人	1,308人	40.9%

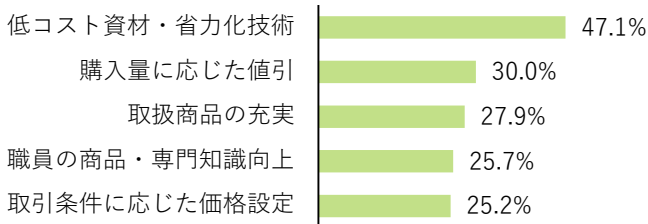
営農指導事業への期待 <正組合員>



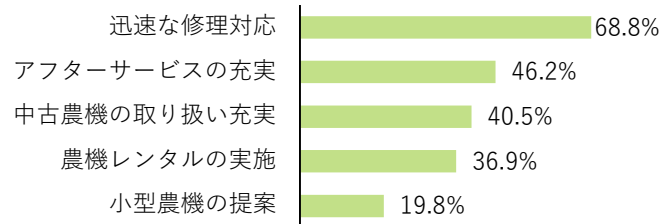
販売事業への期待 <正組合員>



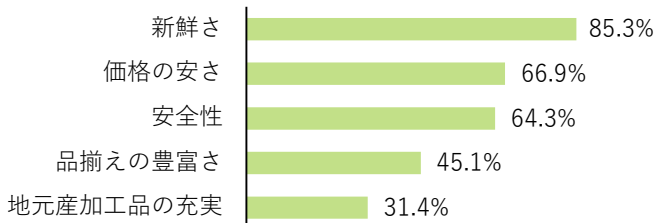
購買事業（肥料・農薬等）への期待 <正組合員>



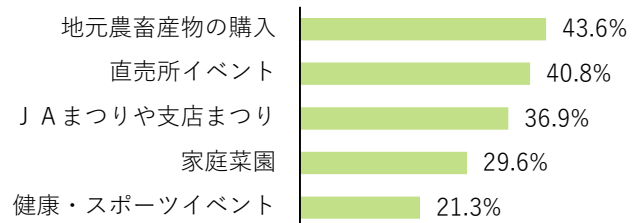
購買事業（農業機械）への期待 <正組合員>



農産物直売所・インショップへの期待 <准組合員>



興味のあること <正・准組合員>



JAみえなか 令和3年度実績

組織規模	実績	事業規模	実績	経営成績	実績
組合員	32,176人	貯金	4,377億円	事業総利益	63億7,661万円
(うち正組合員)	(15,734人)	貸出金	848億円	事業利益	3億8,526万円
(うち准組合員)	(16,442人)	長期共済保有高	8,664億円	経常利益	6億4,188万円
職員	710人	購買品取扱高	42億円	税引前当期利益	4億 888万円
(うち正職員)	(591人)	販売品取扱高	45億円	当期剰余金	2億9,594万円

(注) 記載金額は単位未満を切り捨てて表示しています。

JA綱領

・・・わたしたちJAのめざすもの・・・

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

- 一、地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 一、環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 一、JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 一、自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 一、協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

JAみえなかの“今”を発信中！

公式WebサイトやSNSでは、JAみえなかの最新情報をお届けしています。ぜひチェックしてみてください。

JAみえなか
イメージキャラクター



ミーナ

JAみえなか公式Webサイト

<https://www.ja-mienaka.or.jp/>



JAみえなか公式SNS



@mienaka.ja



@ja_mienaka

